

2015年5月3日川越教会

一致して進む

加藤 享

[聖書]使徒言行録 15章 1～21節

ある人々がユダヤから下って来て、「モーセの慣習に従って割礼を受けなければ、あなたがたは救われない」と兄弟たちに教えていた。それで、パウロやバルナバと那些人たちとの間に、激しい意見の対立と論争が生じた。この件について使徒や長老たちと協議するために、パウロとバルナバ、そのほか数名の者がエルサレムへ上ることに決まった。さて、一行は教会の人々から送り出されて、フェニキアとサマリア地方を通り、道すがら、兄弟たちに異邦人が改宗した次第を詳しく伝え、皆を大いに喜ばせた。エルサレムに到着すると、彼らは教会の人々、使徒たち、長老たちに歓迎され、神が自分たちと共にいて行われたことを、ことごとく報告した。ところが、ファリサイ派から信者になった人が数名立って、「異邦人にも割礼を受けさせて、モーセの律法を守るように命じるべきだ」と言った。

そこで、使徒たちと長老たちは、この問題について協議するために集まった。議論を重ねた後、ペトロが立って彼らに言った。「兄弟たち、ご存じのとおり、ずっと以前に、神はあなたがたの間でわたしをお選びになりました。それは、異邦人が、わたしの口から福音の言葉を聞いて信じるようになるためです。人の心をお見通しになる神は、わたしたちに与えてくださったように異邦人にも聖霊を与えて、彼らをも受け入れられたことを証明なさったのです。また彼らの心を信仰によって清め、わたしたちと彼らとの間に何の差別をもなさいませんでした。それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも負いきれなかった軛を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。わたしたちは、主イエスの恵みによって救われると信じているのですが、これは、彼ら異邦人も同じことです。」すると全会衆は静かになり、バルナバとパウロが、自分たちを通して神が異邦人の間で行われた、あらゆるしるしと不思議な業について話すのを聞いていた。二人が話を終わると、ヤコブが答えた。「兄弟たち、聞いてください。神が初めに心を配られ、異邦人の中から御自分の名を信じる民を選び出そうとなされた次第については、シメオンが話してくれました。預言者たちの言ったことも、これと一致しています。次のように書いてあるとおりです。『その後、わたしは戻って来て、／倒れたダビデの幕屋を建て直す。その破壊された所を建て直して、／元どおりにする。それは、人々のうちの残った者や、／わたしの名で呼ばれる異邦人が皆、／主を求めようになるためだ。』昔から知らされていたことを行う主は、／こう言われる。』それで、わたしはこう判断します。神に立ち帰る異邦人を悩ませてはなりません。ただ、偶像に供えて汚れた肉と、みだらな行いと、絞め殺した動物の肉と、血とを避けるようにと、手紙を書くべきです。モーセの律法は、昔からの町にも告げ知らせる人がいて、安息日ごとに会堂で読まれているからです。」

[序] アンティオキア教会の誕生

主イエス・キリストが復活されて 50 日後の**五旬節（ペンテコステ）**に、祈っていた弟子たちに約束通り**聖霊**が豊かに降りました。弟子たちは恐れることなく大胆にキリストの福音を**宣教**し始めます。当然イエス・キリストを十字架につけたユダヤ教徒から、**迫害**され始めました。

信者たちは、エルサレムから散らされることによって、福音を各地に告げ広めていきました。しかし彼らは、**ユダヤ人以外には御言葉を語りませんでした**。（使徒 11:19）ところが、エルサレムから北 500km のローマ世界第三の大都市シリアの**アンティオキア**にも福音が届きますと、ギリシャ語を話すユダヤ人達がギリシャ人にも伝道し始めたので、**ユダヤ人と異邦人混合のキリスト教会**が誕生します。そしてこの教会からバルナバやパウロが派遣されて、小アジア地方へ向けての**世界宣教**が始まったのでした。これが使徒言行録 15 章までのキリスト教会の歴史です。

[1]意見の対立

すると**エルサレム教会**から来た信者が「**異邦人は割礼を受けなければ救われない**」と教えたのです。エルサレム教会は、主イエスの直弟子である使徒たちや長老たちが中心の、キリスト教第一番目の教会です。そこからやって来た信者です。エルサレム教会の意向だと受け取る人たちがアンティオキア教会内に生まれて来て、信者の間に、激しい**意見の対立と論争**が起りました。

割礼とは、男子の性器の先端の包皮を切り取る儀式です。ユダヤ民族の**始祖アブラハム**が 99 才の時に、主なる神が改めて「あなたを**多くの国民の父**とする」と約束して下さり、永遠の**契約のしるし**として、「男子は皆、**割礼を受けよ**」とお命じになりました（創世記 17 章）。外国人の奴隷であっても、皆受けます。生まれた男の子は**生後 8 日目**に、皆受けることになりました。

このように割礼は、ユダヤ民族にとっては、自分たちの歴史始まって以来 **2000 年間**も受け継いできた、神の民としての**契約のしるし**です。異邦人でも神の民の一員になるには、割礼を受けなければならないと、**強くこだわる人たちが**大勢いたのも、当然でしょう。

そこでアンティオキア教会は、バルナバ、パウロと数人の教会員をエルサレム教会に送り、**教会の一致のために**、信仰の重大問題についての**指針**を確立してもらうことにしました。これが今日の聖書の箇所、使徒言行録 15 章「**エルサレムの使徒会議**」と小見出しがついています。使徒言行録の**分水嶺**と言われるエルサレム会議で、それ以降はパウロを中心に**世界宣教**が展開されます。

[2] 教会会議のお手本

ではエルサレム会議では、どのような結論を出したのでしょうか。教会で大切な問題を相談する時の一つのお手本を、ここから学び取りたいと思います。今日は川越教会も決算総会と5月信徒会がありますので、丁度よい機会です。

大事なのは**結論**の出し方です。7節「**議論を重ねた後**」とあります。皆で自由に自分の考えを述べ、聞き合いました。でもそれだけではいつまでたっても意見がまとまりません。そうするとやがて**有力な意見**が陳述されました。それが7節の続きで「**ペトロが立って彼らに言った**」です。使徒の筆頭ペトロが、他人の思想や知識ではなく、自分自身が伝道で実際に経験したこと、即ち神さまがこの自分をどのように用いて救いの御業を現されたかの**証**です。

すると12節「**全会衆は静かになり**」ました。高ぶってきた皆の心が、ペトロの証で**平静さ**を取り戻したのです。そこでバルナバやパウロも、「自分たちを通して神が異邦人の間に行われた赦しと不思議な業」を静かに聞いてもらうことが出来ました。しかしそこで終わっては**証会**に過ぎません。会議ですから結論を出さなければなりません。では**結論はどのようにして出たか**。

13節「二人が話を終わると、**ヤコブ**が答えた。兄弟たち、聞いてください。」このヤコブは主イエスのすぐ下の弟のようです。(パウロが劇的な回心をした後、ペトロに会いにエルサレムに行った時、「ペトロと主の兄弟ヤコブにだけ会った」とガラテヤ教会への手紙2:19に書いています)多分ヤコブが**実務的な面でエルサレム教会の責任者**に選ばれていたのでしょうか。その彼がそれまでの**長い議論の総括**をしたのです。そしてその総括を皆も承認して、**会議の結論**とし、文書に記して使者をアンティア教会に派遣して、しっかりと伝えたのでした。実にきちんとしていますね。

[3] ペトロの証

では先ず、会議の盛んな議論を**方向づけた**ペトロは、どのような証をしたのでしょうか。使徒言行録の10章に詳しく記されています。彼は当時ユダヤ全土を治めるローマの総督府の所在地、地中海沿岸の**カイザリア**に出向き、イタリア隊の隊長**コルネリウス**とその周りの人々に福音を語り、信仰に導きました。ペトロは生粋のユダヤ人ですから、律法に従って外国人とは食事を共にしない・訪ねもしない生活をしていました。

ところが祈っている時に、天よりの同じ**幻**「神が清めた物を清くないなどとは言うてはならない」を三回も繰り返し示されました。そこへコルネリウスからの使いの者がやってきて、是非来てくださいと招かれました。彼は、**聖霊**に「ためらわずに、一緒に出かけなさい」と促されて、カイサリアのコルネリウスの家に行きました。

そして神のみ言葉を聞こうと願う彼らの真剣な姿を見て、ペトロは知りました。「そうか、**神さまは外国人をも救おうとしていらっしゃるのか**」。そこで彼は「神は人を分け隔てなさらないことが、よく分かりました」と言って、**イエス・キリストの十字架と復活**の福音を語りました。

すると聞いている者たちに**聖霊**が降り、彼らは異言を語り、神を賛美し始めたのです。ペトロは驚きました。そして「**私たちと同様に聖霊を受けたこの人たちが、バプテスマを受けるのを、妨げることは出来ない**」と言って、イエス・キリストの名によるバプテスマを受けるように命じました（10：48）。案の定ペトロはエルサレム教会に戻って来てから、厳しい非難にいましたが、それが聖霊の働きであったことを、はっきりと説明したので、会衆は「**それでは神は異邦人をも悔い改めさせ、命を与えてくださったのか**」と言って神を賛美したのです。（11：18）

[4] 律法の軛（くびき）と十字架の救い

さて15章のエルサレム会議の席上で、ペトロは7節でこのように語り始めています。「兄弟たち、ご存じのとおり**ずっと以前に**、神はあなたがたの間でわたしをお選びになりました。それは、異邦人がわたしの口から福音の言葉を聞いて、信じるようになるためです。」**ずっと以前に**と言っていますから、月日が大分経ち、ペトロの異邦人伝道が忘れられてきたり、知らない人が増えてきたのですね。ですから**大事な信仰の証は、繰り返し語っていなければならない**のではないのでしょうか。神さまの御心を今のこととして、お互いに証し合い、聞き合うことが、教会では大切なのですね。

ペトロは自分の証を次の言葉で締めくくりました。10～11節「それなのに、なぜ今あなたがたは、先祖もわたしたちも**負いきれなかった軛**（これは律法を指します）を、あの弟子たちの首に懸けて、神を試みようとするのですか。私たちは、**主イエスの恵みによって救われる**と信じているのですが、これは彼ら異邦人も同じことです。」

何故ユダヤ教からキリスト教が生まれて来たか。**律法**は正しい生き方を命じています。しかし私たちは律法をきちんと守ることが出来ません。従って**罪の自覚**が増すばかりです。救いの律法が**裁きをもたらず軛**になっています。そこで神さまは、イエス・キリストの**十字架の贖いの死と復活**によって私たちを罪から救い出し、新しい命に生きる者にして下さったのです。だから律法の軛を異邦人信者にも負わせてはならないのです。「割礼を受けなければ救われない」とは、私たちの信仰からは出てこないと言ったのです。

[5] ヤコブの働き

さて長い話し合いを締めくくり**結論を出す**ことになりました。このように教会の主だった人たちが大勢集まっての協議の結論を出すことは、さぞ難しかったことでしょう。しかし主の兄弟ヤコブがその役割を見事に果たしました。彼は**ペトロの異邦人伝道の証を全面的に支持し**、旧約聖書の預言と一致していると言い切って、「**神に立ち帰る異邦人を悩ませないようにしよう**」と結論を表明したのです。

しかし現実には、神の民として旧約聖書に記されている**律法をおろそかにしてはいけない**と信じるユダヤ人キリスト者が大勢います。そこでヤコブは、**その人たちの心情にも理解を示めそう**と呼びかけました。先ずペトロをシメオンと呼びました。これはペトロのヘブル語読みです。生粋のユダヤ人であるペトロの伝道の証だよと、生粋のユダヤ人たちに呼びかけました。そしてアンティオキア教会で混乱を起こした信者については、**正しい福音信仰を示す**だけに留めて、それ以上間違いを追及していません。

そして「聖霊とわたしたちは、次の必要な事柄以外、一切あなた方に重荷を負わせないことに決めました」(15:28)と、大切な**信仰の原則**を明らかに示しながらも、次に**異邦人信者たちに対して**、安息日ごとに会堂で律法を聞いているユダヤ人たちの心情も理解して、彼らが嫌う行為は慎む**配慮**をしようと呼びかけました。

長い民族の伝統を受け継ぐ人たちへの配慮も大切にして、**ユダヤ人と異邦人**とが互いに配慮し合い、寄り添い合って、**教会の一致**を造り上げていこうという結論です。そしてその申し合わせを書面に記し、使者が直接アンティオキア教会に届けて、読み上げて説明するという手続きを取ったのでした。大切な結論は、正確に伝えられなければなりません。実に見事です。

[結] 教会の一致

或る人がこう言っていました。「**一つである**ということと、**同じである**と言うこととは違う。同じものの間には対立も緊張も分裂も起こらない。しかし一つになるとは、相違するものが対立をはらむ緊張の中で、理解し合い、譲り合い、補い合い、分に応じて助け合って結ばれていく**創造的な営み**である。」

神さまは私たちを、一人一人皆違う者としてお造りになりました。そして私たちの罪深さを、キリストの**十字架の死**によって、赦し清め贖って下さいました。その**復活**によって、私たちが死に絶える者ではなく、**新しい霊の命を頂いて生きる者**にしてくださいました。**キリストの体である教会**を形作り、世界の人々に救いの恵みを証ししていく者にして下さいました。

パウロはコリント教会にこう書き送っています。「私たちはユダヤ人であろうと、ギリシャ人であろうと、奴隷であろうと自由な身分の者であろうと、皆、**一つの体となるためにバプテスマを受け、皆一つ霊をのませてもらったのです**」（Iコリント 12：13）。体は色々な部分から成り立っています。一つとして同じ部分はありません。働きの違った各部分が互いに**補い合って**、一つの体の働きを果たしているのです。私たちもキリストの福音を信じる信仰立って、互いに補い合い、助け合って、一致しつつ、証し、伝道して参りましょう。

祈ります：

神さま、貴方は私たちを、一人一人個性を持つ違う者としてお創り下さいました。そして、救い主イエス・キリストを信じる信仰を与え、キリストの体・教会の一員にして下さいました。感謝します。私たちは皆、神の霊、イエス・キリストの霊を頂く者です。霊によって一つとなり、キリストの体・川越教会のそれぞれの部分として、互いにキリストを証しする働きさせて下さい。世界中の全ての人に福音を宣べ伝えていく教会の使命の一端を担う者にして下さい。そして終わりの日、イエスさまが再び来て下さる時に、皆と一緒に天の故郷に連れて行って戴けますようにして下さい。イエス・キリストの御名によって祈ります。 アーメン